

寿 作・演出・出演・柴田智之 音楽・鳥一匹（ムシニカマル）

プロローグ

音楽 フロアーを歩き回り義歯ケース、歯ブラシ・コップ等の洗面道具を洗面台に並べる。その後、居室の健康管理表にチェックをし始めるA子

1場

K野 じゃ、みんなそろったみたいなんで、夜勤MT始めます。．．．．はい。うん。みんな特変なしね。わかった。えーと、A子さんだけ。フロアのスタッフから説明あったと思うけど、夜勤の急変者出たときの説明しておくね。夜勤リーダーは全体を見ての指示だし、救急車付き添いスタッフの荷物の確認（携帯電話、保険書コピー、薬の大袋、フロアー管理のお金、入院セット）ね。それから119番通報、院施設長、FAへの電話連絡、搬送後の1階ドア施錠確認。サブ①は新人の指導、新人がいない場合は全体を見てきていない部分の仕事につく、リーダーのフロアーで救急搬送が決まった場合、サブ①が全体を見ての指示だしを行います。わかる？サブ②は来れないフロアーの担当している仕事を代わりに行う。記録モニター係は各チェック用紙 に記入、モニター前に立ち1階玄関の見守り。荷物係は救急隊が通路を確保する為にデイルームのテーブルやイス、居室内の荷物を移動する。移動が済み次第、「巡回に入ります」と報告してから搬送前巡回をする。巡回係は1度、事故のあったフロアーへ行き「巡回入ります」と報告してから搬送前巡回を始める。玄関係は直接事故があった側の1階玄関へ行き、自動ドアを開放、救急隊に何階かを伝える。搬送後は自動ドア復旧、インターホンいて事故フロアーへ自動ドアを復旧して施錠されたことを報告して事故フロアーに戻る。以上。これ、覚えておいてもらわないとマジでやばいから。俺となりのフロアーだから何かあったらなんでも言ってくれな！（ウインク）じゃ、これでMT終わります。何事もなく年越しできるように頑張りましょうー。やべえ、今俺マジかつこよかったよね。

K野大きな声で笑っている。

A子 これが私の初夜勤での隣のフロアーに務めている先輩K野さんのアドバイス。．．．というか、マニュアルの説明だった。困ったことに全く、わからなかった。その後、自分のフロアーに戻ってから先輩S川さんが、夜勤業務について説明をしてくれた。

S川 ね、ここに紙がはってあるでしょ？ここに夜勤の人が記入していくの。体温、血圧、

脈拍、食事、排泄……でリネンを交換したらこっちのチェック用紙に記入するの。わかった？ あとはみんな食事が済んだら服薬、口腔ケア、着替え、トイレ誘導、入床ね。ここまで一緒にやってあげるから。今日の夜勤リーダー誰だった？あ、
「野さん？じゃ大丈夫だ。何かあったらすぐに連絡するといいいよ。……そうだよね、普通は三か月は働いてからだよね、でもここは一か月そこそこでいきなり夜勤だからね。あ、あと忘れないように言っておくけども、20時VDSで21時消灯ね。洗濯物はそのあとで干してね、朝までには乾くからたたんでダンスに入れて。それから、フロアーは掃き掃除してモップ掛けね。洗面台と鏡、磨いておいてね。さぼったらすぐにわかるからサボらないように。掃除洗濯終わったら、あとは記録ね。ケース記録は前の人が書いてあるの読んだらだいたいわかると思うけど夜勤は赤ペンで記入するんだよ、12人分ね。あとは温度板、inout表、管理日誌、夜勤帯チェック表、食事チェック表、検食表、ケアプランチェック表、体位交換チェック表、センサーマットチェック表、掃除当番表も記入忘れないでね。後、体位交換とパット交換・尿破棄は二時間おきね。じゃ、わたしはこれで帰るけど明日、早めに来てあげるからがんばってね。何かあったら隣のフロアーにすぐに連絡するか、机に私の電話番号書いてあるから困ったら電話して。仕事はたくさんあるけども、一番大事なのは入居者さんだから。怪我と事故だけ気を付けてね。仕事は、最悪残してもいいから。それから、みんなもうベットに入ったから後は、T橋さん寝かせるだけだから。じゃ、お疲れさま。

A子

こうして、S川さんも帰りとうとう12人のお年寄りの中でわたし1人になった。ここは老人ホーム「サンライズ」有料老人ホームとグループホームが併設されている施設。有料老人ホームが12床・4フロアー、グループホームが8床・3フロアー、全部で7フロアー用意されている。介護職員50名前後、調理師・看護師4名、事務3名、医師1名の職場であり、入居されている75名のお年寄りの生活の場でもある。老人ホームで年越し夜勤をする、考え深い1年がスタートしようとしている。

二場

A子

S川さが手伝ってくれたのであと介助が必要なのは車イスのTさん87歳、介護度5、全介助で関わりなくてははいけない。幻覚妄想があり突然大きな声で叫びます。洗面台の前で歯磨きが終わったようので私を呼んでいます。

T

おわりましたー！！……えっ……ああー。そうしてください……。こらああ……おまえそこで何をしている……このごろつき……なに……？

ああ・あんたか・・・いやあ・・・そこでナイフをもったやつが狙ってるから・・・
ああ・・・そうかい・・・はい・・・いやあ、トイレにゆきたいんですがね。

居室へ移動してトイレ誘導する。

T ・はい・・・お願いします。1・2・3！・・・あーできました。

便座に座ると大きなオナラがでる。しばらく間がある。

T ・・・・出したいんですが、出ませんね。これでもう終わりにします。はい。わかりました。よし、1・2・3！あいたたたた！・・・おちんちんの先が・・・うーん！・・・あいたたたた！・・・はい・・・1・2・3！いたたたたたた！やめろ！バカ野郎！！腰が・・・あー・・・よくなりました。はい。ありがとうございます。おやすみなさい。

A子 ふー。Tさん入床と・・・(メモを取る)次にとりかかったのは93歳のおばあちゃんSさん。体がとても小さく、かわいらしい、果物、特にイチジクが好きなようだ。そこがまたかわいい。彼女は骨粗しょう症の為、怪我をしやすい。実は背骨が亀裂骨折しており簡単なコルセットを使用している。慎重に、触れないといけない。頻尿の為、夜通し30回はトイレに行くことになる。

ナースコールの音が聞こえる。1番。

S ・・・・おしっこ・・・よっこいしょのしよ。(ベットから起き上がる)はい。わかったよ。いちに、いちに、いちに、いちに。

トイレに座って排尿する

S ・・・・おわりました・・・いちにいちに、いちにいちに。(ベットに横になる)はい、ありがとうございます。

A子 そうして、だんだんとフロアーが落ち着いてきた頃、やっとご掃除を始めた。そうしながら目を離してはいけないのが、98歳のおばあちゃんWさん。ものすごい頑固者で介助の拒否が激しい、フラフラ歩きでおかまいなしにどこへでも行く、これが危ない。以前、転倒して頭を打ちざっくりとキレてしまっている、転倒の度に認知を進めてゆくようだ。また耳がとても遠い。会話をするときには紙に文字を書

いての筆談の方がコミュニケーションをスムーズに取れる。昼夜の逆転がある。夜通し起きていることが多い。Wさんが気が付くとまた一人で歩き始めている。Wさん！

W、一人でトイレに行こうとしてフラフラと歩いている。

W ん！何！？・・・バカにして！！トイレ位一人でいけるよ！！なんでさ！年寄りだからかい！？ハッ（しっしっしと手を振って追い払おうとする）あっちいって！

Wはかなり危ない足取りでトイレに向かう。

トイレに座り排尿、その後また危険な足取りでベッドに戻る。

W はいどうもありがと！！フン！（時計を握りしめて端坐位になっている）おやすみ！

A子 ふう・・・おやすみWさん。

そうこうしているうちに、自分の部屋より杖を突いて現れたのが85歳のおばあちゃんOさん。帰宅願望があり、1日中フロアー内を歩き回り出口を探している。うまく受け答えをしないと杖を振り回して大きな声出す。短期記憶力がなく、納得してもまた同じことを何度も繰り返してしまう。寝る前に、また不安になったのか、わたしに声をかけてきた。

O あのね先生。あたし帰りたいの。出口はどこですか？・・・。。。そーお・・・でもお父さん家で1人で待ってるんだから。お店忙しいの。帰らなくちゃ。出口どこ？・・・。。。なんであんたがそんなこと知ってるのよ！もうとにかくここから出しておかしくなっちゃう！あばれるよー！何？手紙？知らないわよ。みせて。

O あら。娘の字だわ。どれどれ。ちょっと一緒に読んでくれる？「お父さんは、風邪をこじらせて今入院しています」あらあ。「弟と一緒にいるので心配いりません」あ、それなら安心だわ。「明日一緒にお母さんとお見舞いに行きたいので朝、迎えに行きます」あ、明日くるのね。いやあ、良かった。ほんとだね。ありがとう。そしたら寝るわ。これもらってくよ・・・。はい。おやすみ。ありがとう。

A子 ふう・・・はい。おやすみOさん。

そうこうしながらなんとか掃除を終えると、今度は洗濯だ。大量の洗濯物を洗濯機で回す。気が付くと、側に88歳のおばあちゃんMさんがじっとこちらを見て立っていた。彼女はヒステリックな所があり、不安なことや慣れないことがあると周り

のものを叩き落としたり、お茶をまき散らして大きな声を出すことがある。わたしは、どきどきしながら話しかけた。

M子 ふうん・・なに？おばあちゃんが？若い人と？へー。介護するほうと介護されるほう、どっちがいいのかね。さ、わたしは寝ますよ。で、この旅館は？あたしのベットはあるのかしら？あそう。ありがと。はい。じゃおやすみ。

M、居室のドアを自分で閉めて鍵をかける。

A子・ふう・・どうやらMさんの気分を損なわずに関われたようです。

三場

語り このようにして時間があっという間に過ぎてゆきました。A子はそれぞれのお年寄りが自分のベットに入り眠るのを見守りました。落ち着いた頃、A子は自分より一カ月ほど前に入居してきたB次郎さんの部屋に就寝薬を届けます。

A子 失礼します。B次郎さん、薬の時間ですよ。

B次郎 はい。あ、この声はA子さんかい？いやー。夜分ご苦労様だね。ほら、少し休んでいきなさい。(手探りでラジカセを止める)

A子 あ。いいですねえ。音楽聞いていたんですか？

B次郎 いやあ、昔を思い出していましたよ。わたしはもともと校長をやっていたのだけども、初めはね、音楽の教師だったんだよ。

A子 へえー。

B次郎 子どもたちのかわいかったこと。みんないい子だったなあ。「先生、卒業したくありません」って言って泣いてねえ。一緒に泣いたなあ。音楽だけじゃないの。なんでも教えたんだよ。国語も数学も理科も社会も体育もね。なんでもやらされたなあ。スキージャンプまでやったよ。

A子 ふーん。

B次郎 ただ英語はダメだったみたいだなあ。師範学校の先生に、お前みたいな味噌を塗ったくっような発音ではどうにもならないと。笑。

A子 いやあ、B次郎さんってほんとに色んなことをやってきたんですね。

B次郎 いやあ、爺さんには過去しかないの！とうとう人様のお世話になるようになってしまったー。迷惑かけるねー。

A子・いやいやお世話になるようになったから、ここで会えたんじゃないですか。そんなこと気にしないでB次郎さん。何にも迷惑じゃないですから。これ寝る前のお薬ね。

B次郎 ありがとう。ベリーサンキューA子。アイライクユー。

A子 笑。何それB次郎さん。ノーセンキュー。アイライクユートウ。

2人は心の底から楽しそうに笑っている

語り

これがA子とB次郎の出会いだった。初夜勤が年越しだった。お給料の計算では二時間の休憩時間が引かれているはずだけでも、朝が来るまでひと時も休む時間はなかった。12人分の記録、二時間おきのトイレ誘導・パット交換、寝返りを打てない人の為の体位交換。起床介助。朝食の準備。9時には帰れるはずだったけれど、家に帰ることができたのは11時になっていた、倒れるように眠った。その後の勤務では、人手不足が理由で夜勤明けの次の日が日勤で勤務するということが普通にあつた。それにもそのうちに慣れていった。お年寄りのそれぞれの症状に翻弄されながらも、B次郎と話をしている間には何か心の安まる時間が流れた。日を追う毎に二人は親しくなっていくた。

音楽 365歩のマーチ 日勤のデイルーム 体温・血圧・脈拍測定・入浴・

昼食・お昼寝・風船バレー・夕食・服薬・歯磨き・入床の一連の流れを象徴するような動きを楽しそうに踊る。

A子

このようにして1年が過ぎたある日の夕暮れ、わたしはB次郎が一定の間隔で痙攣しているのを発見した。看護師に報告、念のためにということで救急搬送された。

脳神経外科に入院。脑梗塞だった。以来、認知を少しずつ進めていった。